

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol 52

清らかな清流のふもとで

徳島県 阿波市長

おがさわら みゆき
小笠原 幸



阿波市は、徳島県中央北部の吉野川北岸に位置し、北の香川県境には、阿讃山脈が連なり、緑豊かな山々を有している。これらの山々を水源として、宮川内谷川、日開谷川、大久保谷川及び伊沢谷川が南に縦貫し、扇状地を形成している。

澄んだ空気と清らかな水、のどかな田園風景の広がる阿波市には、多くの美しい自然が息づき、宮川内谷川、日開谷川には、「じんぞく」という魚が住んでいる。ハゼ科の「カワヨシノボリ」の一種で、徳島県ではこう呼ばれている。体調は約5センチで、目玉の飛び出た顔に愛嬌がある魚で、うどんのだし汁に入れて、コクを出す。昔、目の前の川でじんぞくを捕獲し、だし汁を作り、たりのの中に入れて、みんなで食べる楽しみ方が一般的になり、そのうち川原に店を建てて商売する人が現れ、今の土成名物たらいうどんにつながった。自然の中で、つくりだされた食文化だと言える。



日開谷川 自然観察会

しかし清流に住む「じんぞく」が、年々少くなり、環境の変化や水質の汚濁など、魚たちをとりまく環境は、年々悪化している。

魚の住める川を守ることは、自分たちの環境も守ることにつながる。多くの生き物や、たくさんの不思議の出会いに満ちた川辺を大切に守りたい。自然を壊すことなく、自然に配慮された川づくりでなければならない。そして四季折々の変化の中、自然の色が描き出される美しい景色を見続けたい。初夏には、ほたるがほのかな明かりで、夏の到来を感じさせ、秋の訪れは、一斉に錦をまとったようなもみじの谷が、教えてくれる。

人と自然が共存できるまちをめざし、次世代の子供たちへ、少しでも多くの自然を残し、伝えていくことを望む。子供たちの健やかな成長のために。



じんぞく